

「読み解く力」の育成

「読み解く力」説明会資料
教育委員会事務局指導室

1 社会の動向とこれからの教育

これからの社会動向

子どもたちが社会で活躍する 2030 年頃に「超スマート社会 (Society5.0)」の到来が予想されている。これまで以上の加速度で進んでいく社会変化の中で、これからの時代を生き抜くために必要な力を子どもたちに育むことが重要となる。

どのような時代の変化を迎えても、共通して求められる力

- ①文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- ②科学的に思考・吟味し活用する力
- ③価値を見付け生み出す感性と力、好奇心・探究力

重要とされる読み解き対話する力

- ・文章や情報を正確に理解し、論理的思考を行うための読解力
- ・他者と協働して思考・判断・表現を深める対話力等の社会的スキル

2 現状と課題

○フィードバック学習方式及び板橋区授業スタンダードに基づく授業革新により、全国平均値をほぼ超えた。





- 文の成分の順序や主語と述語の照応等を考えて読み取り、適切な文を書く力に関することに課題がある。
- 文章の内容を踏まえ複数の条件に合わせて70～120字程度で書いて説明することに課題がある。

3 目的

全ての教科等に関わる基礎的・汎用的な能力である「読み解く力」を育成し、一層の学力向上を図っていく

「読み解く力」とは 文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読み取り、その意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決したり、表現したりする力

「読み解く力」を支える基礎的読解力の分類について

	係り受け解析	照応解決	同義文判定	推論	イメージ同定	具体例同定
捉え	文の構造を正しく把握し、「誰が」「何を」「どうした」が分かる。	「それ」「これ」などの指示詞が指し示すものや省略されている主語・目的語が分かる。	2つの文を比較し、それらが同義か否かを正しく認識する。	既存の知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する。	提示された文が、どのようなことを表しているかイメージする。	辞書の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得する。理学的な定義を理解し、その用法を獲得する。
問題例	天の川銀河の中心には、太陽の400万倍程度の質量をもつブラックホールがあると推定されている。 天の川の中心にあると推定されているのは()である。 → ブラックホール	火星には、生命が存在する可能性がある。かつて大量の水があった証拠が見つかっており、現在も地下には水がある可能性がある。 かつて大量の水があった証拠が見つかったのは()である。 → 火星	義経は平氏を追いつめ、ついに壇ノ浦でほろぼした。 平氏は義経に追いつめられ、ついに壇ノ浦でほろぼされた。 → 同じである	エベレストは世界で最も高い山である。 エルブレス山の高さはエベレスト以下である。 → 正しい	次の文の内容を表す図として適当なものを全て選びなさい。 四角形の中に黒でぶりつぶされた円がある。 ①  ②  ③  ④  → ① ②	2で割り切れる数を偶数という。そうでない数を奇数という。 偶数を全て選びなさい ①65 ②8 ③0 ④110 → ② ③ ④
授業実践例	□主語と述語、修飾語と被修飾語を線でつなく、色分けをさせる。	□指示代名詞と意味する語句を色分けする。 □省略された主語や目的語を補充して記述させる。	□自分の考えと他者の考えを交流させ、同義か異義かを判断させる。 □解答例を基に記述した文章の答え合わせをさせる。	□既習の知識と本時の学習で得られた知識を組み合わせ、課題に取り組みさせる。 □課題解決のために複数の資料から、根拠を見付けて方策を考えさせる。	□文に書いてある内容を図や表等で表させる。 □図や表等、非言語情報を文で説明させる。	□定義に則して具体例を説明させる。 □具体例が定義に則しているか確認させる。 □新しい語彙を着実に獲得させる。

読んだり書いたりする学習活動を、毎時間取り入れる。

4 具体的な取組

1 「基礎的な読む力」を測るテストを活用した実態把握

「読み解く力」を支え、文章の仕組みや意味を正しく理解するために必要な基礎的読解力を6つの視点で測るテストを実施し、客観的に実態把握を行う。

【対象】 区立小学校第6学年
区立中学校全学年
【実施期間】 1学期

2 読みのつまずきに関するアセスメントの実施

文字や語を正しく読む際に、特につまずきの多い特殊音節を中心としたアセスメントを行い、その結果に応じた指導用教材を使用し、児童・生徒の読みの力の段階に応じた指導・支援を行う。

【対象】 小学校第1・2学年が重点
【期間】 通年

3 授業革新・教材開発

実態把握に基づき、読み解く力を支える基礎的読解力の視点を取り入れた授業革新を推進していく。

- ①全教員、基礎的読解力についての理解
- ②教科書や文章、問題文を正しく読ませるための活動の位置付け(授業スタンダード)
- ③ノート見開き1ページを基準とした学習記録の計画及び、振り返りの充実・徹底
- ④研究授業等での指導の重点と基礎的読解力を関連付けた授業実践
- ⑤教科外のトピック的教材の開発
- ⑥読書活動
- ⑦家庭学習

【研究実践】 各学校、研究校、学びのエリア、教育会、区中研
【研究・実践対象】 全学年全教科等

4 小中学校9年間を通した指導計画の開発

研究・実践を基に、小中学校9年間を通した各教科等の指導計画を開発する。

【内容・時期】
カリキュラム開発【H31～】、
啓発リーフレット作成【H32】
9年間の指導計画の冊子作成【H33】